

認定こども園設置へ

31～32年春の開園が目標、地元と調整



認定こども園として転換される日吉台幼稚園

日吉台幼稚園の認定こども園転換問題で、大津市は新年1月6日、学区自治連に対し、民間による認定こども園の設置を認める方針を打ち出し、早くも31年4月、遅くとも32年4月にオープンとする開園までのスケジュール案を示した。

「日吉台幼稚園の認定こども園への転換に関する要望書」を提出した。別稿で記事掲載。そのさい、越市長は、日吉台学区の要望に対し、認定こども園の新設に積極姿勢をみせていた。

治連会長ら自治連側に対し、今後の具体化のスケジュールを説明した。説明によると、日吉台幼稚園の今の園舎を活用して民間の事業者が認定こども園を開設してもらい、園舎は設置業者に有償譲渡、土地は市保有で有償貸付とする。31年春の開設の場合は29年7～8月、不動産鑑定を行い、9月中旬に事業者公募、書類審査、ヒアリングなどの手続きを経て12月までに事業者を決定する。2年目の平成30年度は6月議会に売買契約、土地の貸付議案を提案、その後改修工事に入る。

日吉台幼稚園では、平成29年度から3年保育を

日吉台幼稚園を転換 市、スケジュール案を呈示

昨年末、要望書提出

越市長「地域と連携、進めたい」と回答

日吉台幼稚園問題

日吉台学区自治連合会（野々口義信会長）は昨年12月26日、大津市役所で、越直美・大津市長と桶谷守・大津市教委教育長に対し、「日吉台幼稚園の認定こども園への転換に関する要望書」を提出した。応じた越市長は「地域と連携して進めたい」と述べ、日吉台幼稚園を認定こども園に転換させる学区要望実現に向きの姿勢をみせた。



越市長に要望書を提出する野々口会長

らが行。市、市教委側は越市長、鷲見徳彦副市長、西田昌弘・福祉子ども部長、井上佳子・市教委教育次長、徳永眞一・同部子ども政策監らが対応した。市役所特別応接室で、越市長と井上次長に要望書を出し、提出のさい野々口会長が「日吉台幼稚園の認定こども園への転換については、市が策定した市立幼稚園規模適正化案にも明示されている。私たちのこの要望は、市の方針に沿うものである」と要望趣旨を説明したのに対し越市長は「市としていろいろ（幼稚園問題）検討するなかでみなさんから認定こども園という要望をいただいたので地域のみならず連携して進めたい」と述べさらに「ご理解いただきありがとうございます」ともつけ加えた。

このあと意見交換で中野・三丁目東自治会長が

幼稚園の今の園舎を活用して民間の事業者が認定こども園を開設してもらい、園舎は設置業者に有償譲渡、土地は市保有で有償貸付とする。31年春の開設の場合は29年7～8月、不動産鑑定を行い、9月中旬に事業者公募、書類審査、ヒアリングなどの手続きを経て12月までに事業者を決定する。2年目の平成30年度は6月議会に売買契約、土地の貸付議案を提案、その後改修工事に入る。

実施すること園児を募集。すでにこの方針による入園希望園児が春の入園を楽しみにしている。今回の認定こども園への転換で、31年春のオープンだと3年目には、日吉台幼稚園がなくなることに、保護者の意向も重要。市は保護者に対し対応策や打開策などを説明したうえ理解を求めるとして、1年の猶予期間をみて32年4月にオープンがずれ込む可能性もあるという。

学区自治連は1月21日開いた役員会で、自治連会則に基づく特別委員会「学区教育問題を考える会」（仮称）の設置を決めた。

自治連が市に要望していた日吉台幼稚園を認定こども園に転換させる計画が、実現の見通しとなり、こども園の問題で地元意見集約を図るのと、市立小中学校規模適正化

教育問題で特別委設置

自治連

地域の子どもを地域で守り育てるためにーをスローガンに第38回「春の集い」日吉ブロックPTA教育研修会（日吉ブロックPTA連合会、日吉コミュニティ・スクール、日吉学区教育推進会議主催）が2月18日午前9時半、大津市雄琴の琵琶湖グランドホテルで開かれる。

このPTA教育研修会

は、地域の子どもたちによる発表や教育講演会などを実施しており、今回で38回目。日吉中学校吹奏楽演奏「日吉鼓動」下阪本小読み聞かせサークル「読み聞かせママ」などのアトラクションで開会、「わが家のルールづくり」作品表彰などのあと落語家、笑福亭仁勇さんの「優しい町で子どもは輝く」をテーマにした講演がある。

防災講演会

「その時」の行動を、共に学びましょうをテーマに学区自主防災会は2月5日午後1時、市民センター大会議室で、「防災講演会」を開く。大津市消防局西分署の大槻忍氏が「気象警報を受けて、どのように対応するか」、市危機防災対策課の眞鍋智行氏が「被災したとき、公的支援を受けるにはどうするか」と題しそれぞれ講演する。

無病息災、家内安全願いどんど焼き

日吉台新春の風物詩

昇る炎に歓声

日吉台小

新春の7、8両日、日吉台小学校で「もちつき大会」と「どんど焼き」が開かれた。寒空のもと子どもたちを中心に多くの住民が集まり、無病息災と家内安全を祈願、ふるまわれた豚汁と焼きもちに舌鼓をうった。

伝統行事の良さを子どもたちに伝えるため日吉台夢・未来事業推進委員会が、平成19年から始め、日吉台の新春の風物詩。もちつき大会は、小学校の中庭であり、240人が参加。おもちをついたあと、きなこもちとぜんざいを完食した。

どんど焼きには、270人が参加。2年前に準備したという木材を使って校庭にやぐらを組み、お祓いとともにお正月の松飾りやしめ縄などを入れて火入れ。天高く立ち昇る炎に参加者から歓声が上がった。このあと子どもたちが竹棒の先につけたおもちを残り火で焼き、あつあつのおもちをほおばっていた。



どんど焼きの火でおもちを焼く参加者



寺子屋プロジェクトで学習する子どもたち

冬休みの宿題、お手伝いも

寺子屋プロジェクトマナ☆ビバ☆

学区自治連まちづく
り協議会の子育て応援隊
は、冬休み中の12月26日

と1月6日、「寺子屋プロジェクトマナ☆ビバ☆」を日吉台小学校で開
き、楽しんだ。

夏休みや冬休みなどの長期休暇中、子どもたちに心豊かに有意義に過ごしてもらおうと企画された。フラワーアレンジメントには、47人が参加、かわいらしいお正月飾りを制作した。ダンスレッスンには42人が参加、懸命にステップをふむかわいらしい子どもたちの姿がみられた。

「マナ☆ビバ☆」には学

習の時間も設けられ、低学年の子らに高学年の児童らが冬休みの宿題を手助けするなどほほえましい光景も。お兄ちゃんやお姉ちゃんらが小さい子らを見守る日吉台ならではのつながりに主催する応援隊メンバーも目を細めていた。

催し、フラワーアレンジメントとダンスレッスンを
楽しんだ。
（0901999710899）まで。

今回の大人25人、子ども42人が参加、昼食後、脳トレやトランプなどを行い大人も子供も楽しいひとときを過ごしていた。今後の子ども食堂開店日は2月25日、3月11日、4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、8月26日、9月16日、10月21日、11月25日、12月9日の土曜日、市民センターで。時間は正午から午後1時。参加費は小、中学生は無料。大人200円。問い合わせは黒井さん（0901999710899）まで。



どんど焼きで立ち昇る炎に歓声

こども食堂開店

学区社協

日吉台市民センターで1月14日、4回の子ども食堂が開店した。学区社会福祉協議会の催し。食堂メニューは、子どもたちが大好きなカレー。中辛、甘口、1歳の子どもも食べることが出来る幼児用カレーと3種。多くの子どもたちが

「ごちそうさま」を宴席で

さんまる いちまる
3010
運動

30 乾杯後、30分は自席で食事を楽しみましょう。

10 お開きの前の10分は自席に戻って食べ切りましょう。

食品ロス削減のため、宴席での料理を食べ切る運動にご協力を。

ごみ減量と資源再利用推進会議・大津市